

ゆめみにゅーす



YUMEMI ZOO



季刊 VOL. 10
発行日 平成20年12月12日
発行責任者 夢見ヶ崎動物公園
問い合わせ 044-588-4030
飼育展示数

(平成20年11月30日現在)

哺乳類:25種196点

鳥類:28種149点

爬虫類:10種 56点

ヤマシマウマの赤ちゃん誕生！

…夢見始まって以来の大事件発生へ！！



前号で紹介しましたが、9月13日にヤマシマウマのミドリがオスの赤ちゃんを出産しました。昨年生まれたアースの弟になります。職員一同大喜びでした！

さて、子育ても順調に進んでいたかに見えた10月3日の朝のことです。職員が掃除のために獣舎内に入ると、親子の様子が変わります。殆どの敷きワラが通路側に出てしまい、おまけに仔馬脱出防止柵も外れて一部壊れています。子供を見てみると「キズだらけ」でかなり消耗しています。

仔馬が近づいたり、お乳をねだりますが、ミドリは噛みついたり、追い回したりしています。グラウンドに親子を出してみましたが、ミドリは一目散に仔馬を追い回し、噛み付きます。仔馬が柵にぶつかって倒れても、その行為をやめません。これ以上の同居は危険と判断し、分離することにしました。

前日の収容時は授乳を確認していたのに…。結局原因は特定できませんでしたが、収容後から朝にかけて親子の間に何かがあったとしか考えられません。シマウマは自然界では群れ生活をしています。ミドリは、もうこれ以上仔馬が群れ生活について来れないと判断する『何か』を、仔馬に見出したのでしょうか？ただ単に嫌になってしまったのでしょうか？

夢見では昭和49年からヤマシマウマを飼育していますが、このような『育児をやめてしまう』事例は初めての経験です。シマウマ用のミルクなど売っていません。ミルクをどうするか、どの位飲むのか、飲まない場合は捕まえて飲ませるのか…。飼育職員全員でいろいろな頭を悩ませました。他の動物園に御協力いただいたり、パソコンで調べたり…。そして馬のミルクは脂肪分が少なく、糖分が多いことがわかり、家畜馬用粉ミルクが到着するまで、市販の低脂肪牛乳を飲ませてみることにしました。すると職員の心配をよそに容器から飲んでくれるではないですか！生後3週間ということもあり、干草や混ぜ餌を少しですが食べてくれます。12月1日現在、家畜馬用粉ミルクをグビグビ飲み干し、餌もよく食べ、順調に育ってくれています。職員にもだいぶん慣れ、触ったりブラッシングできるようになってきました。

名前は『育児放棄』という逆境に負けず、力強く生きてほしいとの願いをこめて『イブキ(息吹)』と名付けました。これからも飼育職員一丸となってイブキを育てていきたいと思えます。

★ピックアップ動物★

フンボルトペンギン



↑↑↑

今年の6月に生まれたイクラです。よろしくネ！今は親とは違う模様(グレー色)をしているけど、来年の夏前後に換羽して、本来のフンボルトペンギンの羽毛に変身するよ。

ペンギンといえば分厚い氷の上にいるイメージがあるかもしれませんが、このフンボルトペンギンは、氷とは縁遠い温暖な南米太平洋沿岸地域(ペルーからチリの間)に生息しています。日本では一番飼育数の多いペンギンです。

～皆様からよく寄せられる質問～

①羽の付け根(脇の下の)カラーバンドは何？

答：ペンギンの名札のようなものです。ペンギンの胸からお腹にかけての黒点の場所は一生変わらず、個体ごとに位置が違うので、それを利用して個体を見分けることもできますが、1羽1羽覚えるのが大変。カラーバンドを付けて区別しやすくしています。

②夏ごろ、全身の羽がボロボロと抜けて、苦しそうにしているのは病気ですか？

答：年に1回羽毛が生え変わる(換羽という)時期があります。普段のペンギンの羽毛は高度の防水性・保温性を持っているため、換羽中、海に入るとは命取りです。羽が完全に生えそろうまでの約2週間、海に入らず、餌も捕らず陸上でじっとしています。そのため換羽前のペンギンはひたすら食べて体重を50～70%増加させ、断食に備えるのです。お腹はパンパンで苦しいはずですが、換羽が終わる頃には逆に空腹を我慢している…ペンギンにとって1年の中での大イベントなのですが、つらく苦しい時期でもあるのです。

★ピックアップ職員★

～今回は **鈴木 友さん** です～



「ゆうちゃん」の愛称で親しまれている鈴木さんは獣医師。東京都西多摩郡から遠路はるばる通勤しています。常に沈着・冷静に行動し、特に負傷動物の治療には抜群のセンスを発揮します。

また職員の間でも1、2位を争う食欲の持ち主。特に加瀬山のふもとの飲食店の「ニンニクたっぷり餃子」が大好き。食後の「臭い」を気にしてか、奥さんに遠慮してなかなか食することができません。いつかお腹いっぱい食べさせてあげたいです！

(今村職員談)



★動物たちの主な移動(平成20年9月1日～11月30日)★

ヤマシマウマ(♂、繁殖)、フサオマキザル(繁殖)、フンボルトペンギン(♀2、死亡)、マーコール(♀、死亡)